

2015年度産コメ生産目標が決定

農林水産省は11月28日に来年度の主食用米の生産目標を751万トンとする基本計画を打ち出した。(昨年の生産目標より14万トン減)生産面積に換算すると142万ヘクタールとなり前年比3万ヘクタール作付減となる。生産目標が前の年を下回るのは、6年連続。米の需要が減り、供給過剰を背景にした価格の低迷が見られることから、生産を減らすことで需給の安定を図りたい考え。今後の需要見通しも示したが2015年度6月末の民間在庫量は昨年同月で10万トン増の230万トンに増加する見通しだ。米価下落と市場稀にみる過剰在庫により米穀機構は市場隔離政策で35万トンもの市場買い入れを実施したが、米価の下落にも関わらず需要減は避けられない予測となっている。また政策として産地に対しては目標数量の超過達成を行った場合、10a当たり5千円の追加産地交付金をインセンティブとして付け加える事も検討しており(同日の西川農林水産大臣記者会見にて発言)自主的取組参考値の目標値として12万トン減を掲げ主食用米の生産過剰調整追加対策も視野に入れた動きを見せている。また、ナラシ対策への加入要件を緩和し過去の平均的な在庫水準にまで減らそうと躍起になっている。早々に15年産の政府備蓄米の買い入れ数量を前年と同様の25万トンとで調整していることを明らかにした。最近の傾向として備蓄米は20万トンが基本数量となっていたが昨年の25万トンに引き続き継続実施する予定。備蓄米は生産目標数量のカウント外にて主食用米からの転換品目となるため備蓄米の数量はどの産地も気になるところだ。自民党は迫る衆議院選挙対策で26年産米の緊急対策として約20万トンの米を来年11月まで倉庫保管させ米価の価格回復を図るとの素案を打ち出している。また日本政策金融公庫のセーフティネット資金の活用で米価下落に対する農家支援対策を訴え票獲得に動いている。飼料用米の作付促進等で非主食用米への転換を促進させることが出来るか今後のカギとなっている。今後のコメ農政の動きに注視したい。

《平成26年7月～平成27年6月の主食用米等の需要見通し》

		単位: 万トン
		主食用米等
平成26年6月末民間在庫量	A	220
平成26年産主食用米等生産量	B	789
平成26/27年主食用米等供給量計	C=A+B	1009
平成26/27年主食用米等需要量	D	778
平成27年6月末民間在庫量	E=C-D	230

26年産米の篩下米・青死米等の発生状況により変動する場合あり

26年産主食用米等生産量は26年10月15日現在の予測収穫量(主食用)

《平成27年産米の生産数量目標(全国)》

※平成27年度米の生産数量目標(全国)※

							単位:万トン
年 産	21	22	23	24	25	26	27
生産数量目標 (自主的取り組み参考値)	815	813	795	793	791	765	751 (739)
前年差	±0	▲2	▲18	▲2	▲2	▲26	▲14 (▲26)

27年産生産数量目的を751万トンとした場合、28年6月末民間在庫が過去の平均水準(199万トン)に近づくとして設定されたもの

全関西トモエ肥連現地研修会 IN 徳島

去る11月13～14日、徳島県にて組員11社12名、トモエ肥連山本局長、エムシー・ファーターコム㈱ 2名、当社2名の総勢17名の出席で全関西トモエ肥連現地研修会を行った。地元の㈱鶴田利七商店様のご尽力により、まず徳島県農林水産総合技術支援センターにて経営推進課安全安心農業室清水室長補佐より、同センターの施設・組織・事業内容と「とくしま安²GAP（とくしまあんぎゃつぷ）農産物」の認証制度の説明を受け、続いて資源環境研究課梯上席研究員より、同県の土壌・土壌管理・農業の特徴・気象・土地利用に関する概要説明があった。



作物では、にんじん・さつまいもの栽培方法について詳しい説明があり、他県の出席者は興味深く傾聴していた。また、吉野川流域の土壌は砂壤土であるが、特産のさつまいもの栽培は砂の投入が欠かせないという。しかしながら上流にダムが建設されてからは砂が下流に堆積しなくなっており砂の利用が制限され、香川県・山口県等の他県より砂を運んで土壌混和するといった手間のかかる作業をしていたのだが近年再度、吉野川の砂利用が緩和され高品質なさつまいもの栽培が維持できる



るようになったとのことだそう。室内研修の後、研究圃場の見学を行った。一般的には知られていないが、今後同県が大地震に襲われる可能性があるとの想定から、津波等の塩害被害後でも栽培できる作物の研究をされているのが印象に残った。

同センター研修の後、鶴田利七商店様よりエムシー・ファーターコムいわき工場品を使用されているレンコン農家とさつまいも農家を訪問し、圃場見学と肥料の評価を伺った。レンコン農家は「肥実効」、さつまいも農家は「オルガニン」を長年愛用されており、高評価を得ている。また、さつまいも農家より掘りたてのさつまいもを分けて頂き、出席者は大満足であったようだ。

懇親会の前にエムシー・ファーターコム野村技師より今年度の水稻調査結果の発表があった。実証試験結果は何れも増収結果が得られており、関西地区におけるいわき工場品の推進に大いに弾みがついた。来年以降も調査は継続して行う方針だ。

関西各地から徳島県に集合しての現地研修会であったが、同県特産であるレンコン・さつまいもの圃場見学は貴重な経験となった。最後に企画頂きました㈱鶴田利七商店様に書面を借りて改めまして御礼申し上げます。

（大阪支店 川崎）

★異常天候早期警戒情報★

～ 13日～22日にかけて全国的に低温・大雪に注意！

12月8日に聞き慣れない言葉が気象庁より発表された。平年より約2℃気温に変動があると異常天候早期警戒情報が発令されるようだ。気象庁より全国的に13日から22日にかけて低温と積雪量が多くなる確率が高いと注意喚起されている。先週より徳島県の山間部にて雪害被害による孤立集落が発生、停電も続きライフラインも寸断され生命にも影響が出ている。12月に入り急激に寒くなった。農作物にも被害が出ないか懸念される状況だ。備えあれば憂いなし！読者の皆様もどうぞお気を付けて。

12月といえば大掃除ですが、古くは12/13が煤（すす）払いの日とされていたそうです。大掃除には煤とともに年内の穢れや厄をお祓いする意味があります。今週末はちょうど13日ですので、大掃除に勤しんではいかがでしょうか。

編集局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>

